

青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

ノーベル賞、五輪金…そして首相も

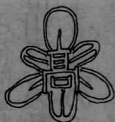
県立横須賀高校（以下、横高）の卒業生の多くが「」にする言葉がある。

「横高からは総理、ノーベル賞受賞者、五輪金メダリストが出た」。政治、科学、スポーツの分野で活躍した3人を引き合いに、「文武両道」を掲げる横



いい先生や友人に恵まれたと語る小柴

横須賀高校 1



高の特徴を表したものだ。

旧制横須賀中を卒業した東大名誉教授の小柴昌俊（87、44年卒）は2002年に「ニュートリノ天文学」という新しい物理学を切り開いたことが評価され、ノーベル物理学賞を受賞した。「悪ガキだったよ」と笑う。物理の時間に「このような質問は理論的に無理だ」と試験を白紙で出して教師と大げんかした。旧制一高受験の時は担任に無理といわれ、奮起して1年浪人して合格。「怒りは人を本気にして人生を変えていくと学

んだ。なにくそが大事だ」

東京五輪（1964年）の柔道重量級金メダリスト猪熊功（故人、56年卒）は、とにかく強かった。2年生の時に裏山で乱闘事件を起こし、担任に「君の負けず嫌いな性格は柔道場の



東京五輪で体落としをかける猪熊。現役引退後も柔道界のために尽力した

で發揮される。しつかり励みなさい」と言われたという。同級生で友人だった今成伸二（76、56年卒）は「彼は1年生の時から圧倒的に強かった。彼が笑うと周りも和やかな雰囲気になった」。人を引きつける魅力があった。

2001年から06年まで総理を務めた小泉純一郎（72、60年卒）と同級生で55年来のつきあがある安藤正宣（72、60年卒）は「純ちゃんには自分を作るリーダータイプではなく、おとなしかった」と話す。昼休みにクラスで野球をすると、サードは小泉の指定席。体育祭の時は巨人対西鉄の日本シリーズを見に2人で抜け出し、最後の整理

今年2月の東京都知事選で演説する小泉。高校時代は外交官志望だった



操の時刻に戻ってきた。「生徒は自分でものを考え自由に動いていた」と安藤は笑う。

小泉のクラスを「奇人変人のまじりだった」と語るのは担任小川省二（89）。夏休みの宿題も誰も出さず、「書ける分だけめよ」と言ったら、全員が名だけ書いて出してくる。「次人物について知るところを話」と問えば「僕はその時代を

生きていないので彼を知らない」と生徒が答え、クラスが沸いた。

「変人」小泉の下地は横高時代から培われていたのか。当の小泉は創立百周年記念式典で後輩を前に「変人はマイナスのイメージが強いが、マイナスをいかにプラスにするか、を考えた方がいい」と語っている。

旧制四中として1908年（明治41年）に開校。自主と自律、文武両道を掲げ、初代校長は吉田松陰のおいの吉田庫三。50年から男女共学に。旧制横中校歌「坂東武者」は今も応援歌として歌いつがれる。